

● 進 進 進 ●
定 住 促
交 流 進

認証米の認知度や、 トキに関する理解度が向上

新潟県佐渡市地域振興課離島交流係



◆ 農漁業が中心の大型離島

佐渡島の面積は八五五・一平方キロメートル、周囲は二八〇・六キロメートルです。東京都二三区の一・四倍の面積を誇ります。

平成二二年の国勢調査によると、人口は六万二七二七人、高齢者比率は三六・八パーセントです。同一二年の調査時から比較すると、一三・一パーセントの人口減少率となっています。

主な産業としては、農業は佐渡産コシヒカリのトキ認証米制度に取り組むほか、柿などの果樹栽培、肉用牛の繁殖経営が中心です。水産業は新潟県全体の漁獲量の二九パーセントを占めています。

少子高齢化が進み、自然減、社会減により人口が減少する中で、離島活性化交付金を活用して、防災体制の強化に

よる住環境の整備に加え、産業の育成による雇用の創出、交流人口の拡大による成長力の強化を図っています。

◆ 認証米の認知度向上により取り扱い店舗が拡大

佐渡産の認証米の販売促進に向けて、「佐渡米販売網構築事業」（平成二五年度事業費四二四四万円）を実施しました。

これは、消費者との対面販売を行う米穀専門店の取り扱い店舗の拡大や、米穀専門店における認証米以外の佐渡産農産物、加工品の取り扱いなど、消費者と米穀店の新たなネットワーク構築を進め、認証米をはじめ加工品などの販路拡大を図り、島内における産業活性化を目指すものです。

平成二五年度は首都圏の米穀店や百貨店において、佐渡米の販売促進活動を行ったほか、新米キャンペーンや認証



●新潟佐渡 未熟と暮らすコシヒカリ
海風に耐えて育つお米のため、表面が硬めで
中が柔らかめという、佐渡独特の食感があり、
ごはん、刺身、和食との相性が良いです

東京で開催された女性向け新米キャンペーンにて、佐渡産認証米をPR。
(平成25年11月)



イベントなどでは、米を使ったレシピなども紹介。

米PRイベント広告を展開しました。
その結果、佐渡産認証米を取り扱っていただけの米穀店の店舗数が、平成二四年度二五〇店舗であったのに対して、同二五年度末では三一〇店舗まで拡大しました。本事業により、佐渡産米のさらなる周知が図られたものと評価しています。

◆トキの保護、野生復帰活動への理解を高めるために

佐渡市は自然界のトキひな誕生により全国的な注目を集めています。市では島内にあるトキの森公園や資料館、トキふれあいプラザなど関連施設を活用して観光客の誘客を図り、あわせてこれまでのトキの野生復帰の取り組みや生態について全国的に発信することにより、地域経済の活性化や交流人口の促進につなげていきたいと考え、「トキ政策推進事業」(平成二五年度事業費約一五八七万円)を実施しています。

平成二五年度は、地元ボランティアガイドの活用による来園者の案内



トキ学習会の様子。子どもから大人まで一緒にトキの生態などについて学ぶ。



教材として活用しているトキの生態を紹介する絵本。

や、トキ野生復帰シンボルデザインの着ぐるみ「サドッキー」によるPR事業、観光客や修学旅行生を対象にした学習会の開催などを行ないました。また、トキの生態を題材にした原画で絵本を作成して、教材として活用しています。

これらにより、トキの森公園への入場者数が対前年で一万三四五九人増加しました。子どもから大人までトキの保護、野生復帰活動に関する理解度の向上が図られたものと評価しています。

◆離島定住において重要なハードとソフト双方の活用

佐渡市では、平成二五年度は補正分も合わせると二四事業、同二六年度は二一事業について採択をいただいております。特に同二五年度の補正分では防災メニューのハード事業（二棟の津波避難タワー整備など）について採択をいただいておりますが、近年の異常気象による災害発生状況を鑑みると、時機を得た事業実施のタイミングが重要であると認識させられます。

ハード事業による住環境の整備に加えて、地域の特色や創意工夫を生かした定住及び交流拡大につながるソフト事業により、人口の抑止対策を行うことが何よりも離島においては重要です。これからも適切な事業執行を心掛けながら、離島活性化交付金による地域の活性化に取り組んでいく所存です。